

『一心千里』

永田 隆一

走ってれば、
見えてくる



第28回

筆者は、ビジネスの出張が多く、月のうち15日前後をホテルに宿泊いたします。振り返れば、大学を卒業して就職した30年前から、今と同じ、出張の多い生活を継続しております。

さて、昨今の日本を取り巻く厳しい経済環境は、セーフティレンジという許容範囲をいつのまにか、はみ出してしまった感が、ございます。これからお話ししますことを、地方出張で、肌で感じて考えさせられます。《200万人保護人員》日本国内の生活保護受給者数は、今年200万人

人を超えました。投入される税金は、3兆円。戦後1952年のレベルであります。1990年か

だに日本国の借金として残っています。そして、保全・修繕に多額の費用がかかる沢山の道路・空港・橋・港や建築物も残っております。歴史から、私たちは学ばねばなりません。

売・卸商に従事する人は、2000年の1400万人から11年の1050万人まで減少。10年で、350万人は、いったい何処に転職されたのでしょうか。

万に大きく舵を切りました。放置される円高や高い法人税。製造業への派遣禁止。政府の無策が日本の製造業から450万人の雇用の機会を無くしてしまいました。

今回のタイの洪水で、多くの日本企業が大きな被害をこうむりました。なぜ、タイなのか。治安の安定、低い人件費、そ

諸国と結んでいます。筆者は、TPPには慎重であるべきであると考えます。10%の関税を云々する前に今の円高や法人税に対処するべきであります。

『降る雪よ、そんなに降り積もらないでほしい、草深き場所に眠る、あの方が寒いだろうから』

日本は、事業、医療保険、食料。

『万葉集から一句』
1300年前の万葉集に、『降る雪は……』という作品があります。意味は、『降る雪よ、そんなに降り積もらないでください。草深き場所(墓)で寝るあの人(昔の恋人)が寒いだろうから』です。

『日米構造協議』

現在の日本の試練は、まさにこの『降る雪』であります。

ら10年間は100万人を下回っていました。この10年で100万人増加しました。働く場所が無いのが理由です。

る。3年毎にその進捗を日米でチェックすると、日本はその資金を国債でまかないました。建設業従事者数推移は、

いう法律が施行され、日本中、郊外に大型ショッピングセンターが出来ました。そして、特に地方が顕著であります。

す。拙速な『大店立地法』は、誤りであったのではないかと筆者は考えます。

して、インドや中国とFTAを締結しているメキシコが、日本企業にタイへの進出を後押ししております。

『TPPを考える』
米国のオバマ大統領は、高い失業率から『米国の労働力の輸出』という方向

《1990年日米協議》
1990年、日本政府は『日米構造協議』に同意しました。海部俊樹さ

1990年 600万人
2000年 650万人
2010年 500万人
そして、この国債は未

失われた20年。1990年、製造業に従事していた1500万人いた日本人は、現在、1050

韓国や中国は、例外分野・品目を除外できるFTAやEPAを戦略的に

日本国政府は、降り積もる雪の『傘』にならないければなりません。そして、日本国民の幸せを通して世界に貢献しなければなりません。

(毎月掲載)